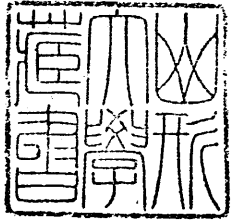


利得美法評林

419
S 2
1-431

三





佐簡森二郎氏寄贈

利得算法記 林

最上流

會田算左衛門安明著

抑利得算法記大成ト名ル書ハ天明四年甲辰春中西
後學志水裡町齋藤貴林ト云モノ、編集スル所ニシ
テ丁未ノ出板ナリ又志水榮十トモ云フ乃ニ草双紙
ノ戲作者ナリ右利得算法記ヲ閱レハ年來作意ニ十
レタル人ノ編集ナル故ニ第一文法モ能ク作意モ亦
面白シ且ツ理論モ可ナルモノ多シテ初學ノ用ヘテ
益アル書ナリ然レモ志水ハ未夕術理ニ通セザル故

風之詩曰南風之薰兮可以解吾民之愠兮南風之時兮可以阜吾民之財兮。

此一限不存也此戒の令とてよむ此の意を考ふるに
世の道なるをれとせしむるにたゞ此世の心算の
数なるを了らばとてしむるべし

評曰右絶子立ノ替問ヲ見レバ百白キ作意ナリ予其術ヲ
試ムルニ問ノ如キハ九六十二箇四分右三十四箇等數七
箇八分ヲ得ルナリ按ズルニ此題ハ絶子立ノ替題ナレバ
九右ノ數分位ニ下ル丁ハアルベカラズ各一箇ニ止ル數
ナルベシ然ル中ハ此條ハ三百二十ト云ベキヲ三百十二

ト書違ヒタルモノナルベシ然ラハ是レ書損ナリ九ナキ
中ハ九右ヲ減スルノ度數ヲ一度書落シタルモノナリ本
書ノ度數ハ必ズ四度ニ限ルナリ四度ナル中ハ右數四十
箇九數六十四箇等數八箇ニノ題ニ云數ハ三百二十ナリ
若シ五度減スル中ハ右數二十四箇九數三十九箇等數三
箇ニノ題ニ云數ハ三百二十ナリ此他據ル所ナシ必ズ右
二件ノ内ニ誤ル所アルベシ仍テ九ニ題ヲ補ヒ其術ヲ施
ス中ハ九ノ中トシ

今有九右數不知其數只云以右減九以其餘減右以其餘
減九餘以其餘減右餘而九右餘得等數又云九右數相乘以

等數約之得三百二十問左右數幾何

答曰 右數四十 等數八

術曰依題意得沉右五相乘之以約云數得等數八以乘沉數

得右四十四合問

今有左右數不知其數又云以右減左以其餘減右又以其餘減左餘又以其餘減右餘又以其餘減左後餘而左右餘得等數以約左右相乘數得三百一十二問左右數幾何

右數二十四 等數三

左數三十九

術曰依題意得沉右八相乘之以約云數得等數三以乘沉數得右二十四合問

評曰右二件トモニ各輕術ナリ然レモ志水が如キノ算者ハ容易ニ其術ヲ得ガタカルベシ其答術ヲ得ザル故ニ其題ヲ誤ルモノナルベシ

云ヲ見レバ弦ノ尺寸ノ内釣ノ尺寸ヲ引残り方面寸ナリ
 ト云ソ是ハ大ヒナル心意違ヒナリ釣弦ノ差ハ方面ニ十
 ルモノニハアラス此等ハ大ニ初學ノ害トナルベシ是ハ
 夕股和内弦ヲ減スル中ハ全四徑ヲ得ル故ニ方面モ亦此
 理ニ通シテ其差ヲ取テ方面トナル所アルヤニ安リニ員
 數ヲ探リ試シテ終ニ其員數ヲ近キヲ見テ方面ナリト誤
 ルモノナルベシ狩モノナキナリ

檢地式



如左六寸四方の田の中より一歩半寸の長
 あり又其方より三寸の長を二歩ありけり
 後で
 三百九又二畝

例曰六寸四方と云ふは三寸四方の田を二つ
 合して六寸四方の田と云ふ事なり其田の
 中より一歩半寸の長を二歩ありけり
 又其方より三寸の長を二歩ありけり
 是れを合して六寸四方の田と云ふ事なり
 又其方より三寸の長を二歩ありけり
 是れを合して六寸四方の田と云ふ事なり
 又其方より三寸の長を二歩ありけり
 是れを合して六寸四方の田と云ふ事なり

評曰右術ヲ見レハ方面算ノ内池ノ歩ト道歩ニ段トシ減
 テ余ラ畝法ニテ除之反別ヲ得ルト云フ是ニテハ術意相

違セリ池ノ辺リ道ニ交ル所弧積ト十ルナリ故ニ其術ニ
 依テ弧積ヲ求メ倍之以テ加ヘカレハ真ノ歩數ヲ得ル
 ナシ尤弧積ノ真術ハ六ヶ鋪モノニ初学ノ得會シカク
 キモノナレハ假術ナリ凡用之術理ノ相違セサル様ニ記
 シタキモノナリ本書ノ如キハ歩數ハ小ヒノ違ヒナレ
 其術ニ於テハ大ニ十ル誤リトナリナリ



如家能管長サハ百四寸ニテ割レハ五分トナル
 石ノ長サハ
 昔曰キ一丈ニテ割レハ三寸五分トナル
 今曰キ一丈ニテ割レハ三寸五分トナル
 昔曰キ一丈ニテ割レハ三寸五分トナル
 今曰キ一丈ニテ割レハ三寸五分トナル

評曰右術ヲ見レハ四周寸三二六ニテ割レハ五分トナル
 ト云ハ誤リナリ三一六ニテ割レバ三尺二寸五分トナル
 也其三尺二寸五分ヲ京間法六尺五寸ニテ割レバ五分ト
 ナルナリ其京間ニテ割ル丁ラ書落シタルモノナリ且長
 八間トナリ云ハ八間法六尺ヲ用ヘキナリ京間ナラバ
 別ニ其斷リアルベキナリ

扱此條ハ作者蛇籠ノ積リ方ヲ知ラズト見ヘタリ蛇籠ノ積方ハ長五間ヲ木途籠トシ差渡一尺五寸或ハ二尺ト積ルト通例ナリ其他ハ注文籠ト云フナリ廻リ何程ト積ルトハ無キナリ爰ニ一ツノ物語リアリ當成年ノ秋御勘定所ニ於テ筆算ノ御改ノアリ其時予ガ門人大勢出タリ其一人小川金之丞ナルモノ、好ニ尤ノ如キ筆算出タリ

一蛇籠千五百本 長八間但京間 廻一丈二寸七分

北石坪

右筆題ニ小川氏大ヒニ惑迷セシナリ凡蛇籠ノ積方ハ差渡何程ト云ナリ御定法ニノ廻ラ云ナリモ十ク又京間ト云

モ常ニ用ヘサル所ナリ故案外ノ積方ニ逢テ大ヒニ若シナリ然レモ兼テ廻リハ周法ニテ割レハ差渡ニナルト云ナリハ覺タレモ其田周法ハ三一六ニテアリシヤ一四一四ニニテアルシヤシカト覺ヘズ終ニ一四一四ニヲ用ヘタル故ニ算違ヒトハナレリ是ハ諸役人御立會ニノ御改ナル故ニ心轉頓シテ終ニ取違ヒタルモノナリ予ニ於テ甚残念ニアリシナリ也然レモ小川氏ハ生年十八也ニ筆算共ニ違シタル故カ終ニ御役儀ハ被付付也
按ルニ右筆題ハ利得筆法記ヲ見テ蛇籠ノ積方ハ如此モノト心意テ作ル所カ或ハ御定法ヲ知テ意地悪ク人ノコ

ハルヨウニ御定法ニ十キヲ出シタルモノナルベシ先
ハ此算書ノ意ヲ用ヘタルモノナレバ即此算書ノ害トナ
リシモノナリ

利得算法記

天高二十七万八千九百七十里

地深五万九千四十九里

評曰利得算法記ノ始ニ天高ト地深ト云フヲ記ス是何
ノ云ツヤ抑天ノ高ト名付ルモノニ品々アリ或ハ九天ト
云ヒ或ハ十二天ト云フ其九天ト名ルモノハ月天水星天
金星天日天火星天木星天土星天列宿天宗動天是ナリ其
九天ノ高低各異ナリ只天高トノミ云片ハ孰レヲ指テ是
トヒシヤ疑ハシキナリ又地深ト云フモ疑シキナリ
地球ノ論ニ地周ノ名アリ地全徑ノ名アリ地半徑ノ名アリ

リ然レ地源ト指ス所未夕聞ズ夫地球ノ大小ノ事我日
本ニ於テハ開闢ノ後測量シタル人アルヲ未聞ズ中華ニ
テハ元ノ世ニ耶律楚材始テ側量スル所ニメ天ノ一度ハ
地ノ二百五十里トメ地周十二万里トス是ヲ日本里ニ按
レハ凡一万六千餘里トス右ハ西川如見ガ著ス所ノ天文
義論ノ説ナリ又井口常範ガ著ス所ノ天文圖解中ニ兩儀
玄覽ノ説ヲ擧テ地球ハ每度二百五十里トメ地一周九万
里ニメ地半徑二万四千三百一十八里令九分里之二トス
又西川正休カ著ス天經或問ノ附録ニ渾地ノ周唐人ハ九
万里トス日本古測ハ一万五千七百五十里令測ハ一万三

千八百四十六里トス斯ノ如ク地周古今ノ差別アリ古測
ハ疎ニシテ今測ハ親シ天ニ三百六十度アリ是ヲ天地ノ
常數ト号ス故ニ地周モ亦三百六十度ヲ分ク定メ此地ノ
一度ヲ紅毛ハ十五里トシ蠻ハ十七里半トシ唐人ハ二百
五十里トス各是ヲ日本里トスルニ古ハ四十三里七分半
トシ今測ハ三十八里四分六トス海上ノ里數ヲ測ルニ密
合ス是愚父ガ數歲測驗シテ得ル所也ト云云又遠西耶蘇
會士羅雅谷湯若望等ガ編ム所ノ曆引ニ地一度ヲ二百五
十里トメ地周九萬里地徑二万八千六百四十八里トス
右ノ諸説ニモ地源五万九千四十九里ト云ト云フハ見

へズ利得算法記ハ何ヲ以テ斯ノ如キ疑ハシキヲラ算書
ノ始ニ置ヤ狩モ無キヲナルベシ抑算法ハ至直ノ道ナリ
疑シキヲ記スベキモノニアラズ此書ハ塵劫記大全ト
云フ書ヲ改正メ著ス處也ト云フ其塵劫記ノ始ニ継子立
ト云算題ヲ記ス利得算法記ニ是ヲ難シテ不孝不慈ヲ教
ル理ニメ宜カテサル事トシ替題ヲ置ク此等ハ其理アル
ニ似タリ又古ヨリ八算ノ割声ニ二進一十ト呼來レルヲ
誤リ也トメ改正メ二沉一進ト云フ此等モ亦一理アリ然
レモ二ツニ割ル片ニヲ拂テ上ニ一ヲ置ハ自然ノ理ニ
其割声ハ人ノ名付タルモノナレハ二進一十モ二沉一進

モ同シ事ナルベシ誤リト云ニモアルベカラズ斯ノ如キ
小キトモ改正スルノ書ニ甚疑フベキ天高ト地深トヲ記
スハ大ヒナル誤リニアラズヤ世ノ諺ニ人ノ寸愚ヲ知テ
我尺愚ヲ知ラズト云モノ此等ヲヤ云ベキ且天地ノ論ハ
予ガ編集スル所ノ天文簡要論之卷中ニ詳カナリ今其一
端ヲ云ハ左ノ如シ

日天最高三千三百九十一万八千五百七十五里

月天最高一十〇万三千一百一十六里

地全徑 三千二百三十四里

62

1

